

「つくって遊ぼう！いしぐれカルタ！」反省点

参加者 / 1年生11人 2年生4人 3年生9人 4年生4人 / 計28人

学生 / 高橋 滝 土屋 高村 立姿 神谷 樋江井 福井 植木 石堂 杉野 黒木 / 計12人

□ 準備段階

- ・ 予め子どもたちに内容を考えてきてもらうことで比較的スムーズに作成に取り掛かることが出来た。本番前に小学校に行ったときに、全体に一斉ではなく、一人一人に丁寧に説明をしたのが良かったと思う。
- ・ 最初のキーワードを指定することで学校について考える機会になったと思う。
- ・ 今回は卒論修論時期で出来なかったが、キーワード決めは本企画で重要な部分なので、今回は立姿、神谷で行ったが、時間があれば一度それを学生全体で吟味する機会を持ちたかった。
- ・ (もしカルタを作品として長く残したいというのであれば、) **使用する材料や道具にこだわってもよかった**のかなという印象を持ちました。(予算の範囲で) 特に、ペンやクレヨンなどの絵を描く道具については、統一しておけば全体のまとまり感が出たと思います。
→自分の中での勝手なイメージでは入学式のみならず、一般のクラスが総合学習の時間などに気軽に使えるツールとしても期待して良いものであると思っていたので、カルタそのもののデキばえというものを重要視していたので…。結局は子どもが描く絵ですから、そこまでデキばえは求められませんが…。
- ・ **キーワードを子どもたち側からも引き出せる**とよりおもしろいと思いました。
→我々よりも子どもたちの方がいしぐれ小学校について詳しいこともきっとあるのではないだろうかこれまで企画を通じて感じていたので、我々が提示できるものとは違ったいしぐれ小学校生活を表すキーワードがひょっとすると出てきたのかもしれない。

□ 当日

- ・ ダンボール・牛乳パックを使っているということは、エコがメインの目的ではないにしてもそれを考慮していた部分もあったので、軽くでも子どもたちに話したほうがよかったのかもしれない。
- ・ はじめの説明の時に話を聞かない子がいた。
>時間との兼ね合いも考慮したうえで、子どもたちが興味を惹くような説明の仕方を工夫してもよかった。
- ・ 作成時間が子どもによってばらばらであった。
>予備のカルタを用意していたのはよかった。
>後半遊びだす男の子たちがいたので、もう少し短くした方がよかった。
- ・ カルタとりに軍手を、たすき代わりにしたのはメリハリもつくしい意味で制約がつくのでよかった。
- ・ カルタとりが進むにつれて混雑してしまった。臨機応変に対応したが予め予想できることだと思うので対策を講じるべきだった。(ex. 読みは始めるまでは入らない区域を作る、学生スタッフを数人そういう役(審判・整備)にするなど)
- ・ カルタとりそのものがおもしろさに欠けた。
→その主な原因のひとつとして、**使用するスペースとカルタの大きさや数とのバランスが悪かった**。今回

はいしぐれホールという大きな場所を使っているので、もっと一枚一枚の距離を大きくとると、どこにどの札があるのかわからずに、スペース内を駆け巡りながら大きく動き、見つけたときの喜びが大きくなるのではないだろうか？（今回はとるまでの時間が短く、近くにないととれないことで、幾人かの子はあきらめながら参加していたように感じました。）

- メリハリという意味では、**カルタを配置するスペールのラインを示しておく**と良かったように思います。ルールが曖昧なことで、子どもたちが陰悪になることがあったので、**明確なルールが重要**であると感じました。
- 今年度の5回を振り返ってみると、最も打ち合わせに時間を費やした企画1回目の企画の評判が良かったようです。（子どもたち何人かに聞いてみたところ）子どもたちがフルタイム気を散らさずに楽しんでもらうためには、入念なシミュレーションというか、現場での姿をイメージしながら企画していくことの重要性が明らかになったような気がします。